

SGC75 正誤表

	(誤)	(正)
p19, line 1	f が全射であることは, $f^{-1}(B) = A$ であるということに他ならない	f が全射であることは, $\text{Im}(f) = B$ であるということに他ならない
p21, line 12	直和, 直積は全単射による任意性を除いてそれぞれ s1), p2) の性質によって定められる	s1), p1)
p28, line -3	$S^{-1}R = K[[x - a]]$ ($x - a$ を変数とする形式的冪級数全体) となる. (そんなはずはない!)	$S^{-1}R$ は $K[[x - a]]$ ($x - a$ を変数とする形式的冪級数全体) の部分環とみなすことができる.
p40, line -1	準同型写像 $\varphi : M \otimes_R N \rightarrow X$	準同型写像 $\varphi : T' \rightarrow X$
p48, 定義 3.9	$\phi^{i+1} \circ d_X^i = d_Y^{i+1} \circ \phi^i$	$\phi^{i+1} \circ d_X^i = d_Y^i \circ \phi^i$
p48, line 16	$0_Y = \phi^{i+1} \circ d^i(x) = d^{i+1} \circ \phi^i(x)$	$0_Y = \phi^{i+1} \circ d^i(x) = d^i \circ \phi^i(x)$
p48, line 18	$H^i(\phi)(x') - H_1(\phi)(x) =$	$H^i(\phi)(x') - H^i(\phi)(x) =$
p49, 定義 3.11	$H(\phi) : X \rightarrow Y$	$H(\phi) : H(X) \rightarrow H(Y)$

	(誤)	(正)
p54, line 24	圏類次	圏類似
p55, (3.8)	$0 \rightarrow \text{Im}(d^{i-1}) \rightarrow \text{Ker}(d^i) \xrightarrow{\pi^i} H^i(V) \rightarrow 0$	$0 \rightarrow \text{Im}(d^{i-1}) \rightarrow \text{Ker}(d^i) \rightarrow H^i(V) \rightarrow 0$
p55, (3.9)	$0 \xrightarrow{\iota^i} \text{Ker}(d^i) \rightarrow V^i \rightarrow \text{Coim}(d^i) \rightarrow 0$	$0 \rightarrow \text{Ker}(d^i) \rightarrow V^i \rightarrow \text{Coim}(d^i) \rightarrow 0$
p58, line 4	3.7 節のタイトルと内容の関連について	複体の短完全列における Y を複体の写像 $d_{ZX} : Z \rightarrow X[1]$ の写像 垂 という.
p60, 定義 3.29	$\pi : X \rightarrow Z$ を経由する	$\pi : Y \rightarrow Z$
p61, 定義 3.34	可換図中の f と $\tilde{f}$	逆にする
p61, 定義 3.34	自由右 R 加群は移入的である. 集合 Λ と右 R 加群 $I_\lambda, \lambda \in \Lambda$ に対し, 各 I_λ が移入的であることと $I := \bigoplus_{\lambda \in \Lambda} I_\lambda$ が移入的であることは同値である.	(一般には成り立たないので) 削除する.
p62, line -4	自由加群は移入的でもあることから, 任意の右 R 加群 X は移入分解を持つこともわかる.	任意の右 R 加群 X は移入分解を持つことも知られている (例えば [24, p133] など参照).
p66, line 4	$\text{Hom}_C(X, Y) = \text{Hom}_{C^{\text{op}}}(X, Y)$	$\text{Hom}_C(X, Y) = \text{Hom}_{C^{\text{op}}}(Y, X)$

	(誤)	(正)
p74, line -3	の余核を $\text{Im}(f) := \text{Coker}(\iota)$ と定め, f の像 (image) と呼ぶ.	の余核を $\text{Coim}(f) := \text{Coker}(\iota)$ と定め, f の余像 (coimage) と呼ぶ.
p75, line 1	の核を $\text{Coim}(f) := \text{Ker}(\pi)$ と定め, f の余像 (cokernel) と呼ぶ.	の核を $\text{Im}(f) := \text{Ker}(\pi)$ と定め, f の像 (image) と呼ぶ.
p76~ p77	定義 4.42 関連	「複体の写像」という言葉と「複体の射」という言葉は同一視してください.
p85, 定義 4.62	リフト $\tilde{f}: P \rightarrow Y$	リフト $\tilde{f}: P \rightarrow X$
p89, 定義 4.69	$\cdots \xrightarrow{p_1} P_1 \xrightarrow{p_1} P_0 \xrightarrow{p_0} X \rightarrow 0$	$\cdots \xrightarrow{p_2} P_1 \xrightarrow{p_1} P_0 \xrightarrow{p_0} X \rightarrow 0$